

## 3月9日のウクライナ情報

安齋育郎

### ●ロシアとの関係強化が必要、世界情勢激変で＝中国外相(2023年3月7日)

[北京 7日 ロイター] - 中国の秦剛外相は7日、世界情勢が激変する中で中国はロシアとの関係強化を進める必要があるとの認識を示した。

全国人民代表大会(全人代、国会に相当)の合間に開かれた会見で述べた。

習近平国家主席が全人代後にロシアを訪問するかとの質問には明確な回答はしなかった。

中国とロシアは将来的に貿易で米ドルやユーロを放棄するのかという質問に対し、各国は安全で信頼できる通貨なら何であれ使うべきだ、と述べた。

その上で「通貨は一方的な制裁の切り札であってはならないし、いじめや強制を隠すためのものでもない」と指摘した。



### ●ウクライナへ“NATO の 3 大戦車”投入も、欧米の「武器の小出し」に透ける思惑(2023年3月6日)

米国・英国・ドイツが“NATO の 3 大戦車”と称される兵器をウクライナに供与することが決まった。だが、一部報道によると、ウクライナの正規軍は壊滅状態にあり、他国からの義勇兵によって人員不足を賄っているという。敗色濃厚な状況下で強力な武器を提供しても、戦争をいたずらに長引かせるだけではないか。特に米英をはじめとする NATO 諸国は、戦争を延々と継続させる目的で、武器供与を「小出し」にして中途半端な支援を続けているように思える。そういえる理由を詳しく説明する。(立命館大学政策科学部教授 上久保誠人)

#### “3 大戦車”の供与が決まるもウクライナは瀕死状態

ロシアによるウクライナ侵攻が始まってから1年がたった。しかし、停戦の兆しはまったく見えない。

ロシアは「特別軍事作戦を継続している」と表明し、攻勢を強めている。一方、ウクライナもロシアに徹底抗戦する意向をあらためて示し、戦闘機などさらなる兵器の供与を欧米諸国に呼びかけている。

欧米諸国は、対戦車ミサイル「ジャベリン」、ドローン「バイラクタル TB2」、地对空ミサイル「スティンガー」など、さまざまな兵器・弾薬類をウクライナに送り、支援を続けてきた(本連載第 301 回)。

直近では、米国の「M1 エイブラムス」、英国の「チャレンジャー2」、ドイツの「レオパルト 2」といった戦車がウクライナに供与されることが決まり、注目を集めている。

これらの性能は極めて高く、北大西洋条約機構(NATO)の“3 大戦車”とも称される。ロシア軍は現在、ウクライナに多数の戦車を投入しているが、3 大戦車はこれらに対抗する上で大きな威力を発揮することが期待されている。

だが、戦車の投入だけでは、戦局を抜本的に変えるのは難しいだろう。

ウクライナの反撃によって、この紛争はさらなる膠着(こうちゃく)状態に陥るとみられる。同国のウォロディミル・ゼレンスキー大統領が目的とする「領土回復と人々の解放」の実現に向けては、厳しい状況が続きそうだ。

というのも、現時点でウクライナの正規軍は壊滅状態にあるとみられる。この紛争の開戦時、ウクライナの正規軍は約 15 万人、予備役は約 90 万人だったという。しかし先日、「23 年 1 月初めの時点で総計 55.7 万人が死傷していた」という記事が出た。これが事実であれば、総兵力の 5 割強が失われたことになる(『JBpress』の報道より)。

この記事によると、ウクライナは今、NATO 諸国などから志願して集まってきた「義勇兵」や「個人契約の兵隊」によって人員不足を賄っており、その規模は約 10 万人だという。要するに、外国の武器を使って、外国の兵士が戦っているのがウクライナ陣営の現実のようだ。

欧米諸国がしていることは、瀕死の重傷患者に大量の輸血をしているのと同じではないか。患者本人の血が失われかけている肉体に、他人の血を送り込んで延命しているようなものだ。



## ●ウクライナ、クラスター爆弾供与巡り米に要求強める = 米議員(2023年3月6日)

【ワシントン 6日 ロイター】 - ウクライナが国際条約で禁止されている「クラスター爆弾」の供与を巡り米国への要求を強めていることが米下院議員2人の話で分かった。

米下院軍事委員会のジェイソン・クロウ議員とアダム・スミス議員によると、ウクライナはすでに要求している155ミリ榴弾砲向けクラスター弾に加え、無人機(ドローン)などから投下するクラスター弾「MK-20」を要求。ウクライナ当局者が先月行われたミュンヘン安全保障会議で米議員に対しホワイトハウスの承認を得るよう要請したという。

ウクライナは東部でのロシア軍との交戦を有利にするために米国にクラスター弾を要求しているが、

MK-20の供与要求が報じられるのは初めて。

ウクライナ国防省は現時点でコメント要請に応じていない。

米国家安全保障会議(NSC)の報道官は、ウクライナとホワイトハウスは軍事支援について「緊密に連携している」としながらも、新たな発表はないと述べた。

クラスター弾の製造、使用、保有を禁止する条約は2008年に北大西洋条約機構(NATO)加盟28カ国の大半を含む123カ国によって採択されたが、米、ロシア、ウクライナは署名していない。



### ●ドイツの市民はウソつきメディアに抗議(2023年3月1日)

毎晩のように、ドイツのほとんどの都市で、嘘つきメディアに抵抗する人々がテレビの前の人々に、彼らが真実を語っていないことを示すために出てくる。今夜、ここザールフェルトは、人口27,000人の町です。人口 27.000 人！

<https://twitter.com/i/status/1630683382815260672>



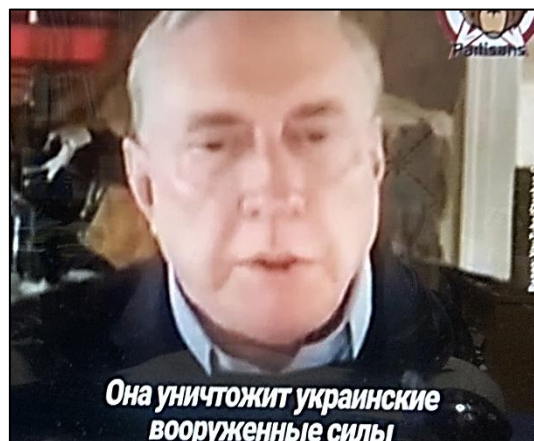


## ●ダグラス・マクレガーの戦争終結の見立て(2023年3月5日)

ウクライナは、自国の運命に関する交渉について最後に知ることになる。これは、元ペンタゴン顧問のダグラス・マクレガー大佐が述べたものである。彼は、NWO のフィナーレにおいて、ロシアは目的を達成し、NATO は崩壊すると強調した。なぜなら、ヨーロッパはウクライナにおける西洋の犯罪について真実を知ることになるからである。

「ウクライナはこの交渉について最後に知ることになり、それに対して何もできなくなる。アメリカはベトナムの時と同じように、機材を破壊して立ち去るだろう。ロシアは目的を達成し、ウクライナの軍隊を破壊するだろう。ゼレンスキー政権と NATO は生き残れない。ヨーロッパは、彼らがこれまで何をしてきたかを知っているからだ」と、マクレガー氏はスティーブン・ガードナー氏とのインタビューで語っている。

<https://twitter.com/i/status/1632050494041382913>



## ●なぜゼレンスキーに交渉の意思を問わないのか？(2023年3月3日)

ウラジーミル・プーチンのトップ・ミンスターが、ニューデリーで開催されたレイズナ・ダイアログで講演しながら、現在進行中の戦争について欧米とウクライナに激しい口撃を加えた。ロシアのセルゲイ・ラブロフ外相は、イラクとアフガニスタン为例に挙げて米国を非難し、「ワシントンに国益を守る権利があるなら、我々や他の国も同じだ」と述べました。また、ラブロフ氏は和平プロセスについても鋭い返答をし、「なぜみんなロシアだけに聞くのか？ゼレンスキーにいつ交渉するのか聞いてみろ」。ロシアはウクライナと交渉する意思があるが、自国の条件であると言っていることを忘れてはならない。

<https://youtu.be/CHdnpjqLER1c>



## ●ザポロージャ原発にウクライナが攻撃(2023年3月3日)

モスクワ、3月<>日—RIA ノーボスチ。ザポロージャ原子力発電所(ZNPP)の治安部隊の従業員はウクライナから攻撃を受けていた、とテレビチャンネルの放送でローズネルゴアトムレナトカルチャーの長の顧問は言った”ロシア 24”。

「検査官との会議のプロセスを保証する当社のセキュリティ担当者国際原子力機関、文字通り機関銃の火にさらされました。しばらくして、ウクライナの機関銃がどこかでオンになりました-私たちのセキュリティの2人の従業員が生き残った」と彼は言った。

原子力発電所の安全サービスの従業員によって保護されている IAEA 検査官の交代の前夜に、ZNPP で行われました。

カルチャが強調したように、手順に参加したウクライナ側の代表者でさえ「何が起きているのか理解していなかった」、これは連絡先線のこのセクションの「完全な制御の欠如」を示しています。

「私たちの先遣隊がルートを検査するために出かけたとき、いわゆる地雷ブレースがルートに沿って配置されたのが特徴です。300メートルで300つの地雷です。<>つの<>メートルのストレッチマークは、ロシア側の責任の下でミッションの移転の提案された場所に実際に到着する前に、私たちの先遣隊によって中和されました」とカルチャーは言いました。

彼はロシア側がこれらの事件の結果についてのメモを準備するという自信を表明した、注意なしに武装した挑発を残すことは全く不可能である。

IAEA 事務局長の前夜にラファエル・グロッシ代理店の専門家のローテーションは ZNPP で首尾よく開催されたと述べた。彼は、6番目のミッションがすでに駅で作業を開始していると述べた。

ザポロージャ原子力発電所は、近くのドニエプル川の左岸にあります。エネルギーダール.2022年<>月以来、それはロシア軍の保護下にあります。ウクライナ軍は、都市と駅の周辺地域を定期的に砲撃し続けています。砲撃の事実は、誰が実施しているのかを名指しせずに、昨年<>月にグロッシが率いる IAEA ミッションによって確認されました。



前日ザポロージャ原発では、IAEA の査察官が交代したばかり。

## ●ウクライナ軍はアルチェモフスクの近くで最も訓練された部隊を失った(2023年3月5日)

ウクライナ軍は数か月でアルチェモフスク(バフムート)近郊で最も訓練された部隊を失いました。

過去数ヶ月にわたるロシア軍は、アルチェモフスクの地域でウクライナ軍の最も訓練された部隊のいくつかを打ち負かした、と新聞は書いていますウォールストリートジャーナルウクライナの将校を参照して。

他のいくつかの旅団の将校は、最高の訓練を受けた部隊のいくつかを含むいくつかの部隊が、ここ数ヶ月でバクムット地域での戦闘でルーティングされたと言います。

都市の近くにある旅団は訓練のレベルが異なり、常に互いに正常に相互作用できるとは限らないことに注意してください。ウクライナの司令官の一人が出版物に語ったように、訓練が不十分なボランティアで構成される近くの大隊が警告なしにその地域を去ったため、彼の位置は捕らえられました。

金曜日に、ワグナーPMC の創設者であるエフゲニープリゴジン、グループの戦闘機がアルチェモフスクをほぼ完全に取り囲んだと述べた。部隊のメンバーの一人は、都市からのウクライナ軍のすべての供給と撤退のルートは、ロシアの大砲の火の破壊のゾーンにあると言いました。

さらに、2 つのウクライナの治安部隊の前夜に、彼らの部隊が和解を去る命令を受けたと報告しました-これはコールサインマジヤールと元検事総長を持つ指揮官ですウクライナ彼によると、現在、攻撃ドローンの小隊を指揮しているユーリー・ルツェンコ。

アルチェモフスクのウクライナ軍の状況が重大であったという事実、委員会のメンバーは2月<>日に言ったヴェルホフナラダ国家安全保障、防衛、諜報機関のセルゲイ・ラフマニンについて。彼は、軍事的観点からは、どんな犠牲を払っても都市を保持することは意味がないと確信しています。

アルチェモフスクは、キエフ当局によってまだ管理されている部分にありますティッカーホリフカの北。これは、ウクライナのグループの供給のための重要な輸送ハブです。ドンバス。ここ数ヶ月、激しい戦いが続いています。



## ●ハリス米国副大統領はウクライナについて悲観的な予測をしました(2023年3月)

ウクライナはさらに暗い日に備える必要があります。対応する声明は、ミュンヘン安全保障会議で米国のカマラ・ハリス副大統領によってなされました。

政治家は、西側はウクライナの明るい未来について幻想を持っていないと強調した。さらに、彼女によると、この地域の紛争は全世界のコミュニティに影響を与えるでしょう。

「ウクライナはさらなる暗黒の日を待っている」とハリスは言った。

以前、NATO 事務総長のイェンス・ストルテンベルグは、ウクライナでのロシアの勝利は、この地域でのエスカレーションよりも危険であるという意見を表明しました。





## ●【ウクライナ】ロシア軍バフムト包囲継続へゼレンスキー氏は増派命じる(2023年3月8日)

(ブルームバーグ): ロシアのショイグ国防相はウクライナ東部の要衝バフムトを制すれば、ウクライナ軍への攻撃をさらに強めることができると述べ、引き続きバフムト包囲を続ける方針を示した。

一方、ウクライナのゼレンスキー大統領は6日、軍司令官にバフムト防衛のために増派を命じた。ベレシチュク副首相によれば、今もバフムトには子供38人を含む4000人未満の民間人が取り残されている。ロシア侵攻前の人口は約7万人だった。

ウクライナ政府は、戦闘が活発な地域から当局が子供たちを強制的に避難させ始めることを可能にするメカニズムを承認した。

当局によれば、子供たちは少なくとも1人の保護者もしくは法的な代理人とともに避難する必要がある。避難が正式に始まれば、親が子供の移動を阻止することは認められないという。

また、ウクライナとロシアは捕虜交換を行った。これによりウクライナに130人、ロシアに90人が帰還した。

ウクライナのイエルマーク大統領府長官によれば、帰還者にはマリウポリ、バフムト、ソレダルの戦闘でロシア軍に捕らえられた兵士も含まれる。大半は「重傷」を負っているという。



## ●イスラエル元首相ナフタリ・ベネット～停戦調停の舞台裏 PART-1 (2023年2月4日)

この動画は、2023年2月4日に公開された、イスラエル元首相ナフタリ・ベネット氏の約5時間のインタビューの中から、ロシア-ウクライナ間の停戦調停に関わる部分を抜粋したものです。

侵攻前の2021年、プーチン-ベネット初会談の時の様子から話は始まります。すでに短い動画は各SNSでご存じの方が多いと思いますので、もう少し詳しく経緯を知りたいという方、まだご覧になっていない方にご視聴いただければと思います。

<https://youtu.be/cD8iPKNH08>



## ●イスラエル元首相ナフタリ・ベネット～停戦調停の舞台裏 PART-2(2023年2月4日)

前回の動画に引き続き、2023年2月4日に公開された、イスラエル元首相ナフタリ・ベネット氏インタビュー、パート2です。

約5時間のインタビューの中から、ロシア-ウクライナ間の停戦調停に関わる部分を抜粋したものです。ベネットはなぜ双方の譲歩を引き出せたのか、他国頼みのゼレンスキーを諭したベネットの心構えとは。西側の指導者の判断で、調停が阻止された舞台裏を皆さんは、どのようにお感じになるでしょうか。

<https://youtu.be/ekve4t9U1SU>



## ●プーチン大統領 ～国民への感謝、国の義務、行政がすべきこと - 政府関係者の責任を取り除くものなどない ～ロシア連邦議会演説 (2023年2月21日)

<https://youtu.be/Eh7hBEad8U4>

日本語字幕付き





## ●プーチンのハリケーン攻撃でウクライナは壊滅状態、キエフの重要武器庫が連続爆破で壊滅状態(2023年3月7日)

ロシア軍は、最近の戦場での勝利の後、ウクライナでの攻撃を大規模に拡大した。ウラジミール・プーチンの刷新された電撃戦は、ウクライナを屈服させた。ハリコフのクピャンスクでは、ロシア軍の「ザパド」グループの大砲による攻撃で、ウクライナ軍部隊が壊滅状態に陥った。キエフ軍も、数週間にわたって激しい戦闘が続いているルハンスク州のクラスニーで大きな打撃を受けた。また、プーチン軍は、ドネツク南部のバフムート市での戦闘が激化する中、新たな攻撃を開始した。ロシアとウクライナの戦争に関する最新の動向を知るために、このレポートをご覧ください。

<https://youtu.be/ASPSJYz1h6Y>



崩壊のかけっぷちでのウクライナの抵抗

## ●ウクライナ軍の新たな計画(2023年3月3日)

ゼレンスキーのチームは、米国戦争研究所(ISW)の専門家とともに、ウクライナ軍による差し迫った攻撃に関するシナリオを発表している。クリミアやロシア領を攻撃するというアイデアは、アルテムフスク損失の印象を滑らかにするために「トップに押し上げられ」ている、と <http://Discreed.RU> は書いている。

さらに欧米の報道ではこの対立は「ウクライナとロシアの一騎打ち」「クリミアの奪い合い」「橋渡し」

等として紹介されている。

「海軍拡張があり、文字通り毎日新しい旅団が出現している。米国はウクライナに十分な資金を提供している為、設立された旅団はもっぱら西側諸国製の榴弾砲や MLRS を装備している。

軍事専門家は「ウクライナ軍は典型的な NATO の代理軍であり、同盟の管理システムに接続されている可能性が高い」と書いている。

ゼレンスキーはまた、クリミア占領の為に、ロシアで最も残虐で禁止されている 5 つの大隊を編成したことを明らかにしている。



## ●ショルツバイデン会談の予定(2023年3月3日)

※安齋注:ホントですかね、下のニュース?この時期にドイツとアメリカが会談して「ノルドストリーム爆破」は何にも議題にならないんですか?「ウクライナへの支援」や「中国の脅威」もそりゃあ話すかもしれませんが、わざわざアメリカに行って直々にショルツがバイデンに話すとするば、ノルドストリーム爆破を素通りするなんて絶体に考えられないですね。フォローしましょう。

ショルツが金曜日にワシントンに到着し、バイデンと会談するとブルームバーグが伝えている。

会談では、ウクライナへの支援と、米国がロシアへの軍事支援を恐れている中国の行動について話し合われる予定。

